

でばり通信

vol. 3 患者様と佐藤病院をつなぐコミュニケーションメディア

でばりの由来

佐藤病院は、今も「館出張たてでばり」の名前で呼ばれています。これは江戸時代より観音山の「館」地区より高崎藩城下に出張診療を行い明治初期に現在地（高崎市若松町）に移転してきた歴史を持つからです

佐藤病院理念

私たちは出産を中心に、女性の生涯にわたる専門病院として、優秀なスタッフによる最新医学を取り入れた診療内容を、地域社会に提供する使命を自覚し、温かみのある看護とサービスにより、患者さま一人ひとりに愛される病院を目指します。

患者さまの権利章典

当院は患者さまの医療に対する主体的な参加を支援するために、以下の「患者さまの権利章典」を尊重し診療をおこないます。

1. 患者さまには、医療提供者との相互の協力関係のもと、良質な医療を得る権利があります。
2. 患者さまには、医療従事者が提供する治療法に関して、自らの意志で決定する権利（選択する権利と拒否する権利）があります。
3. 患者さまには、診療録等の開示を求める権利があります。また、診療過程で得られた個人情報の秘密が守られる権利があります。
4. 患者さまには、医療従事者に対して、患者さま自身の健康に関する情報をできるだけ正確に伝えていただく責務があります。
5. 患者さまには、すべて患者さまが適切な医療を受けられるために、他の患者さまの治療に支障を与えないように配慮していただく責務があります。

施設案内 ～検査室～

よく診察にいらした方から「検査室はどこですか？」ときかれまます。検査室は1F北側通路・第3診察室前にあります（わかりづらく、ご迷惑をおかけしております）現在5人の検査技師が、「やさしい言葉遣いと笑顔」で皆様に接するよう日々仕事に従事しております。

皆様にあまり馴染みのない検査室業務ですがその仕事内容を説明してもらいましょう。

1. 尿一般検査
2. 生殖医療技術を取り入れた不妊治療（精子・卵巣の機能チェック、体外受精・顕微授精）の補助
3. 免疫療法（習慣性流産の方への治療のひとつと考えられている技術）
4. 新生児の血液検査（血液型・新生児期に測定を必要とする検査…ヒパタ、先天代謝）
5. 病理検査
6. 心電図・超音波検査（三次元胎児超音波診断）
7. 採血業務
8. 細菌検査（細菌性炎症・絨毛羊膜炎等の検査）
9. 輸血検査（適合血を検査し提供）

おわかりいただけましたでしょうか？検査室にお立ち寄りの際には、お気軽にお声かけください。

（写真）左上から
長井則恵 土屋雅子
関奈穂子
増山葉月 矢島英彦
アイドルキューピー君



インタビュー：イラストレーター兼主婦・古谷野正江さん ～1F喫茶&ベビーショップ「ゆうゆ」にて作品展示中～

もうすでにご覧になった方もたくさんいらっしゃるでしょう。去年より始めました「地元の作家による絵本の原画展」（とタイトルを付けてしまいましたが）は1F喫茶&ショップ「ゆうゆ」にて行われています。現在展示中のイラストレーター・古谷野正江さんにインタビューしてみました。

Q：古谷野さんはイラストを書こうと思ったきっかけは何ですか？

A：もともとは都市銀に勤めるOLだったのですが、結婚しても地元で一生かかわっていきける仕事を…と思い、イラストの学校に通いました。

Q：現在に至るまでの活動状況を教えてください

A：中3・高3の子供をメインに主婦をしています。また自分が年をとらないように、そして絶対何があってもやめないというような体制をつくってイラストの仕事をしています。8年ほどプリントごっこのイラスト集を担当、現在は様々なコンテストに応募するかたわら、前橋市内のカルチャーセンターで20代から70代の主婦を中心に色鉛筆画を教えています。



Q：古谷野さんにとって絵はどんな存在ですか？また読者の皆さんに一言お願いします。

A：絵があったから、やってこられた…という感じです。実は子供が障害をもっているのですが、何にでも挑戦したがる元気で、親としたら心配で心配で手取り足取り面倒を見て…となりがちですが、私には絵がありましたから、子供だけに集中してストレスをためてしまうということもなく、子供と一緒に元気にがんばれた気がします。よく「子供がいるから何も出来ない」といわれる方がいますが、どんなことがあっても夢をもって続けていくこと、その気持ちが大切なんだと思います。

素敵なお話をありがとうございました。笑顔も語りかけもやさしさがあふれている古谷野さんでした。8月初旬には、お話に出てきたお子さんのことを書いた絵本を展示する予定です。お楽しみに！

スタッフ紹介 ～医事部～

皆様が来院されて、まず応対させていただくのが受付ですね。その受付から会計まで、皆様のサポートをさせていただいています医事課をご紹介します。おなじみの「顔」は、佐藤病院の「顔」でもあります。今回はスタッフがどんなことを心掛けて仕事に取り組んでいるかを聞いてみました。より親しんでいただけたら幸いです。



（高橋喜一郎）
笑顔・親切・丁寧をモットーに患者様一人ひとりに愛される様、頑張っています



（原治代）
笑顔で対応、安心感を持てただけよう一層努力をしていきたいと思えます



（松村弘子）
明るい挨拶と暖かみのある対応を心掛けています



（三浦千恵子）
私達医事部は、1時間おきに1Fフロアを巡回しています。不安な事、分からない事がありましたら、お気軽に声をかけてください



（宇留野史）
ミーティング、勉強会等を行い、患者様の気持ちを考えた対応ができるよう努力しています



（高橋淳子）
受付業務の他、入院案内、待合室等の見回りもしています。患者様の気持ちを少しでも理解し、安心感を持っていただけるよう頑張っています



（阿久沢淳子）
患者様に待ち時間を少しでも快適に過ごしていただけるような対応を心がけて頑張っています



（大橋佳美）
日々笑顔で、気配りと目配りを心掛けています。不安なこと気になることがありましたら、お気軽に声をかけて下さい



（中江朋子）
皆様の声を参考に、より安心して通院していただけるよう、常に改善を心掛けています。貴重なご意見をお聞かせ下さい

セミオープンシステムニュース 連携医紹介①「岸産婦人科医院・岸 東彦先生」

健診は近くの医院で、お産は佐藤病院で…と、始まったセミオープンシステムも多くの患者様にご利用いただいています。今回はその連携医第一号であります、岸産婦人科医院 副院長の岸東彦先生からのお話です。

約4年前から、自院（院長は父）での分娩取扱いを中止、外来のみとして同時に佐藤病院での勤務を開始、現在週3回外来を担当しています。自院で受診した患者様には「佐藤病院とのセミオープンシステムにて連携しており、9ヶ月頃ま

では岸医院にて健診、その後は佐藤病院で健診・分娩としますが、佐藤病院での外来も分娩立会いも可及的、自分が行っています」と説明します。時には他施設への紹介を希望される場合もありますが、ほとんどの方はこのシステムにて分娩されます（一時、立会い率75%位でしたが、最近やや低下気味で気になります…）

岸医院は、佐藤病院の勤務医であった父が35年前に独立、開業した施設ですの

で、親子2代にわたって佐藤病院に勤務したことになります。「私は岸先生のお父さんにとりあげてもらって、生まれました」という患者様の分娩に今回は私が立会うというケースも時々あります。そんな時

患者様のお母様（父が立会った時の妊婦様）は、大変感慨深いようです。



岸 東彦先生